

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年6月21日現在

機関番号：24501

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2012

課題番号：21520588

研究課題名（和文） 文学を取り入れた英語教材・教授法の開発：革新的な英語教育を目指して

研究課題名（英文） Using Literary Texts for Progressive Language Teaching

研究代表者

立木 ドナ（TATSUKI DONNA）

神戸市外国語大学・外国語学部・教授

研究者番号：80347517

研究成果の概要（和文）：

現在の日本の英語教育では文学テキストは英語教育に積極的に利用されているわけではない。本研究は、英語教育において文学テキストを効果的に用いる方法をあらためて探るために、文学および言語学の研究者と共同で研究を行う。プロジェクトは次の3つのステージに分かれる。

①文学テキストの英語教育における有用性を評価し、その問題点と利点を明らかにする。

②文学テキストを生じた授業のワークショップを行い、中学、高校、大学の教員に向けて文学テキストの効果的な利かし用法について考察する機会を提供する。

③文学テキスト再導入のための国際学会を開催し、ストーリーテリング等の実践家とともに、学際的・実践的なネットワークの構築を試みる。

研究成果の概要（英文）：

This 4-year project looked the “repositioning” of literature into classroom texts. Such a project called for researchers with backgrounds in literature and linguistics to collaborate in order to seriously consider how literary texts may best be utilized in ELT. This was accomplished in three stages: 1) By critically evaluating a range of literary texts and sources to assess their potential usefulness in an ELT context and to catalogue both the challenges and benefits of integrating literary texts into ELT curricula for the development of productive and receptive skills, 2) Based on a critical evaluation of various literary sources, public workshops on the effective use of literary texts were offered to teachers in junior/senior high school and at college level, 3) Scholars in linguistics and literature joined forces to collaborate with expert ELT educators in Europe and Asia to hold an international Research Conference to share expertise on theory and practice.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	900,000	270,000	1,170,000
2010年度	600,000	180,000	780,000
2011年度	700,000	210,000	910,000
2012年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：英語教育・文学テキスト・教授法・教材研究

1. 研究開始当初の背景

文学テキストを英語教育に利用する可能性は、あまり熱心ではないものの、言語学の分野において論じられてきた。H. G. Widdowsonの先駆的研究にはじまり、Ron Carter, Christopher Brumfit, そして Mick Short などが後に続く。こうした研究はコーパス言語学の成果にも支えられており、教育に実践する上で信頼性も高い。

また、口承伝統やストーリーテリングそして演劇などを仲立ちにするかたちで、文学テキストを英語教育のカリキュラムに取り込もうとする動きも広く見られる。

これに対し、日本における文学テキスト導入に関する研究は少ない。斎藤兆史の試みはその数少ない例外であるが、その関心は文学を専攻する学生に対する専門教育にあり、一般レベルの学生・生徒に対する教育を念頭に置いたものではない。

こうしたヨーロッパ地域にける研究成果を取り入れ、文学テキスト再導入のために、教師と（ストーリーテリングや演劇の）実践家とのネットワークを構築することが望まれることに、実用的な英語に傾斜している日本の教育シーンにおいては、その方向性を批判的に検証する上で本研究はことに重要である。

2. 研究の目的

本研究には以下の5つの目的がある。

- ①文学テキストの特徴を分析・記述し英語教育に生かす。
- ②ヨーロッパおよびアジア地域での英語教授法における文学テキスト再導入実践の方法を跡づける。
- ③日本の英語教育において文学がどのように扱われてきたのか、その歴史的変遷をたどる。
- ④教科書に採用された文学テキストを吟味し、英語教育において文学がどのような影響を与えたのか批判的に検証する
- ⑤アジアとヨーロッパ地域における文学テキスト再導入の実践を批判的に検証する。

3. 研究の方法

本研究に必要なデータは、おもに以下の3つの方法によって集められる。①授業観察、

②教師および教科書作成者に対する面談、そして③教科書に対する批判的談話分析の手法に基づく分析。

これら収集したデータをもとに分析を進めるが、その際、学術的・理論的な研究に偏ることなく、教育実践のコンテキストを念頭に置くことが本研究の特徴である。そのため、ストーリーテリングなどの実践家の実演や意見なども参考にする。また、扱うデータの性格上、英語教育の分野のみに限った研究を行うのではなく、文学や言語学の研究者とも共同した学際的なアプローチを試みる。

4. 研究成果

データの分析は現在も進行中であるが、現時点までの成果を上記の5つの研究目的にそれぞれ紹介する。

①文学テキストの特徴と教育

英語教育に利用可能な文学テキストの特徴は非常に多岐にわたり、用いるテキストの特徴自体よりも、そのテキストを使ってどのようなタスクを行うかが、テキストの有用性により大きく影響する。

②海外における文学テキスト再導入の実践

文学テキスト再導入に関しては、ヨーロッパ諸国における取り組みが、抜きん出ている。たとえば、イタリアの中等学校においては、英語と英語文学・文化の学習が必要とされている。その際、語学・文学・文化のいずれにも堪能な教員が、ひとりで一貫して4年間の教育に当たる。このような方法の利点は、難解なテキストとどのように関わるのか、ご顔面・文化面に関して適切な助言を行えることである。

③日本の現状

先述のように、日本ではおもに大学レベルの教育において文学テキストを利用した教育が行われるのみである。もっとも、一部の私立高等学校では、文科省検定教科書ではなく、独自の教材を用いて文学テキストを用いた教育が行われている。

④教科書における文学テキスト

日本の教科書は4年ごとに改訂されるが、質の高い文学テキストを利用する動きはほとんどない。多くの場合、文学テキストは選択的な読み物として取扱われるか、詩が扉に

数行引用されるのみである。たとえば、*Mainstream I*では、文学テキストが用いられていても、それは自由選択読み物として挙げられているだけで、どのようなアクティビティを行うべきなのか一切の指示がなかったり、また、語彙や文法事項を導入するためだけに、生徒向けに書き直された短編が載せられたりしている程度である。文学テキストの使用はおざなりなものと言えよう。

⑤再導入の理論的根拠

文学テキストには、人が一定の出来事に対し、それをどのように認知し、経験し、評価し、伝えようとしたかが内在されている。取り組み方さえ分れば、文学テキストは生徒に作り物ではない深いことばの体験を提供できる。

文学テキストの英語教育カリキュラムへの組み入れについては、Tatsuki & Zenuk-Nishide, 2012 および Zenuk-Nishide & Tatsuki, 2012 が、そして授業における文学テキストの導入方法については、Tatsuki, 2009; や Zenuk-Nishide, 2009 句いて論じた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 9 件)

- ① Tatsuki, D. & Zenuk-Nishide, L. Literary texts in ELT in Japan. In Bibby, S. (ed.) *The Journal of Literature in Language Teaching*, Vol. 1, 2012, 40.
- ② Tatsuki, D. & Zenuk-Nishide, L. Plenary: The Place of Literature in the ELT Curriculum. In Bibby, S. (ed.) *The Journal of Literature in Language Teaching*, Vol. 1, 2012, 38-40.
- ③ Zenuk-Nishide & Tatsuki, D. Using Literary texts for EFL in Japan: A Comparative analysis of Two Approaches. In M. Sanz & J. M. Igoa (eds.), *Applying Language Science To Language Pedagogy*. Cambridge: Cambridge Scholars Publishing. 2012, 293-320
- ④ 道木一弘, 南隆太, 建内高昭.
「小学校外国語活動を前提とした小・中学校での英語関連科目を拡充する英語教員養成カリキュラムの開発」『日本教育大学協会研究年報』 29, 2011, 299-309.

- ⑤ Tatsuki, D. A Comparative Analysis of German and Japanese text books. 『神戸外大論叢』 61:4, 2010, 37-50
- ⑥ Tatsuki, D. Doing Gender and Ethnicity in Language Textbooks. *Linguapax Asia: A Retrospective Edition of Language and Human Rights Issues*. Tokyo: Linguapax Institute. 2010, 153-162.
- ⑦ Tatsuki, D. Why we need story telling in our curriculum. 『神戸外大論叢』 60:5, 2009, 27-37
- ⑧ 山口治彦「視点の混在と3人称の語り：自由間接話法の問題をめぐる」坪本篤朗・早瀬尚子・和田尚明(編)『内と外の言語学』開拓社、2009、213-244
- ⑨ Yamaguchi, Haruhiko. Re-contextualizing reported speech: Some remarks on literary pragmatics. In Turner, Ken and Bruce Fraser (eds.) *Language in Life, and a Life in Language: Jacob Mey - A Festschrift*. Bingley, UK: Emerald Group Publishing. 2009, 441-447.

[学会発表] (計 11 件)

- ① Tatsuki, D. Invited public lecture *Storytelling: Narrative and Literary Texts in Language Teaching* American Embassy, Rome, 2013年2月19日
- ② 山口治彦「表現と省略の構図：“Indian Camp”における文体と物語のなぞ」第15回日本語用論学会ワークショップ「Hemingway 作品を読み解く」(大阪学院大学) 2012年12月1日
- ③ Tatsuki, D. Doing Gender and Ethnicity: An Analysis of Ministry of Education Approved ELT Textbooks in Japan and Germany. TESOL Italy, Rome. 2012年11月16日
- ④ Tatsuki, D. & Zenuk-Nishide, L. Literary Texts in Japan: A Comparative Analysis. 第38回 全国語学教育学会. 2012年10月12日
- ⑤ Zenuk-Nishide, L. & Tatsuki, D. Literary Texts can be Taught Communicatively Using Authentic Texts in Secondary School. 11th Seminar for English Language Education. Kansai University of International Studies, Amagasaki. 2012年7月21日

- ⑥ Zenuk-Nishide, L. Autonomous Vocabulary Learning and Assessment through Word Card Study. 11th Seminar for English Language Education, Kansai University of International Studies, Amagasaki. 2012年7月21日
- ⑦ Zenuk-Nishide, L. & Tatsuki, D. Literary Texts in ELT. Osaka JALT Back to School. Osaka Gakuin University, Osaka. 2012年4月22日
- ⑧ Zenuk-Nishide, L. & Tatsuki, D. Integrating Literary Texts into ELT Curricula. 10th Annual World Wide Forum on Education and Culture. Rome, Italy. 2011年12月4日
- ⑨ Tatsuki, D. & Zenuk-Nishide, L. Repositioning Literary Texts for ELT. 4th Annual Conference on Literature, Languages and Linguistics. The Athens Institute for Education and Research (ATINER), Athens, Greece. 2011年7月12日
- ⑩ Tatsuki, D. & Zenuk-Nishide. Doing Gender and Ethnicity: An Analysis of Ministry of Education Approved ELT Textbooks in Japan and Germany. Worldwide Forum on Education and Culture, Rome, Italy. 2010年12月4日
- ⑪ Zenuk-Nishide, L. Differences in how Literature is Taught in Japanese Junior and Senior High School. Re-Orienting English: Paradigms in/of Crisis, International Conference. National Taiwan University, Taipei, Taiwan. 2009年12月5日

〔図書〕(計2件)

- ① Trivedi, Poonam and Minami Ryuta (eds). *Re-playing Shakespeare in Asia*. New York and Abingdon: Routledge, 2010, 343.
- ② 山口治彦、『明晰な引用, しなやかな引用: 話法の日英対照研究』くろしお出版、2009、276

〔産業財産権〕

- 出願状況 (計0件)
○取得状況 (計0件)

〔その他〕

ホームページ等

〔産業財産権〕

- 出願状況 (計0件)
○取得状況 (計0件)

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

立木 ドナ (TATSUKI DONNA)
神戸市外国語大学・外国語学部・教授
研究者番号: 80347517

(2) 研究分担者

ZENUK 西出 Lori (ZENUK-NISHIDE LORI)
神戸市外国語大学・外国語学部・准教授
研究者番号: 30453145

南 隆太 (MINAMI RYUTA)
白百合女子大学・文学部・教授
研究者番号: 60247575

山口 治彦 (YAMAGUCHI HARUHIKO)
神戸市外国語大学・外国語学部・教授
研究者番号: 90220269